

平成27年3月

吉岡行政区総合計画

将来像 「町畑・迎久保・大泉坊チームワークで行動達成」



吉岡橋から阿武隈川と那須連峰を望む

平成27年度～平成31年度

吉岡行政区

現状と課題

- ① 通学路の安全確保
- ② 不法投棄
- ③ 吉岡地区全体での交流の減少
- ④ 歴史的な遺産がある



行政区の将来像

町

畑・迎久保・大泉坊

チームワークで行動達成！

具体的な取り組み

基本目標1 「安全・安心な地域づくり」

取り組み	担 当	スケジュール
① 通学路の安全確保 歩道の設置、危険箇所の明示等。	行政に要望	平成27年度～
② 不法投棄対策	行政区	平成27年度～

基本目標2 「3部落の交流がある地域づくり」

取り組み	担 当	スケジュール
① イベントの企画検討会 町畑・迎久保・大泉坊3部落の役員 が集まって検討会を開催。	行政区	平成27年度～



資料編(吉岡行政区)

四穂田古墳

平成二十六年三月、吉岡地区の四穂田古墳から古墳時代中期（五世紀前半）の鉄製よろい「短甲」が発見された。東北では初の出土となった。

短甲は胸・腹・背を守る鉄製のよろいで、精巧なつくりとなっており、漆塗りされていた可能性もある。

この短甲は近畿地方のヤマト政権が各地の有力者に授けたものと言われている。全国で多数出土しているが、四穂田古墳から出土する前は南魚沼市が北限だった。識者によると、短甲は旧白河郡一帯を治めた有力者が所有していたものと推定され、この発見はこれまでの歴史を見直す契機になるものとされている。

町畑遺跡

(中島村史第9章「遺跡および石造物」より)

大字吉岡字町畑地内で町畑部落に接した畑地から、昭和五年ころ二この土師が出土した。

土師は現在不明であり、遺跡の範囲は、部落西側から道路南部にわたる小範囲で、遺物も少ない模様である。

吉子川小学校に所蔵されている石斧に「町」の記号あるものあり、あるいは「町畑」の略との考証から調査したが不明である。

出土した土師は古墳時代のものであると思われる。

三島山慈法寺

(中島村史第9章「名所・伝説および地名の起源」より)

町畑地区にこのお寺があった。天台宗の寺であるが、代々住職がおらず、以前は修行の道場であったと伝えられている。

ある年、落雷のため焼失し、小針地区からお堂を買って再建したのが、現在のものである。

この火災についての伝説がある。町畑部落の苗代が点在していたころ、毎年何者かのために、苗代が荒らされてきた。地区の人たちは、だれもその正体を見付けることができなかった。被害が余り大きいので、部落民の困りようは、一通りではなかった。

たまたま、雷のために寺が焼けてしまい、その時お堂の近くにあった大杉も燃えてしまった。あとで地区の人たちが、その大杉の焼け跡から、大きな蛇の骨を見付けた。苗代を荒らしたのは、この蛇であった。地区の人たちは、自分たちに害をする蛇を退治するため、神様はお寺に雷を落としたのだといって、喜び合ったということである。

馬橋の由来

(中島村史第9章「名所・伝説および地名の起源」より)

吉岡から野出島に抜ける道路の、阿武隈川に架けてある橋を、「馬橋」と呼んでいるが、この付近の阿武隈川に架けてある橋の中で、馬を通せるのは、この橋一つであり、これがこの橋の由来であるという。年貢米運搬のため、駄馬の通行が必要で、丈夫な橋を架けたようだ。

けれども、いつの時代かは不明だが、洪水のため橋が流されてからは、渡し船を使つたという。渡し船の長さは四間ほどで、一度に四頭の駄馬を渡すことができた。

吉岡行政区の地域資源（お宝）

文化財



三島神社



八坂神社

自然



田園風景

その他



吉岡橋



大泉坊ふれあいセンター



町畑公民館



迎久保公民館

吉岡行政区